

グラビア	地域を支える人 山城圭之填さん+黒島伸仁さん・沖縄県	1
発掘!地域の希望のタネ	〈村民キッチン〉群馬県片品村	5
用務にお任せ!	学校事務員からなる施設作業班・佐賀市	中村雄仁 6
書評	前浦穂高 著『コロナ禍の教訓をいかに生かすか』	菅原敏夫 8
焦点	「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」成立	永田久美子 10
	—基本法を活かしてわが町ならではの地域共生の具現化を	

特集 身近な公共空間〈公園〉を考える

	都市公園とは何か—その歴史と概要	舟引敏明 18
	都市公園における指定管理者制度運用への警鐘	上原 恵 27
	PMP (Park Management Plan) とは何か—公園設置者と市民との契約	林まゆみ 38
	大都市の公園をめぐるトラブルの現状	松嶋香奈 46
	障がい者団体と協働した公園の日常管理—福岡県筑後市の取り組み	古賀義章 52
	みんなの公園愛護会の活動	椛田里佳 56
地域おこし協力隊が行く!	第5回 映像の力で人のあたたかさを伝える—静岡県浜松市	小林成彦 63
自治研活動レポート	さまざまなことに興味を持ち、知見を広げ、チャレンジ精神を持って自治研活動を—和歌山県本部	吉川和孝 70
	次号予告・編集部から	72



「コロナ禍の教訓をいかに生かすか
医療従事者の働き方の変化から考える」
ぎよみせう 一三三〇頁

前浦穂高 著

全日本自治団体労働組合・衛生医療評議会監修

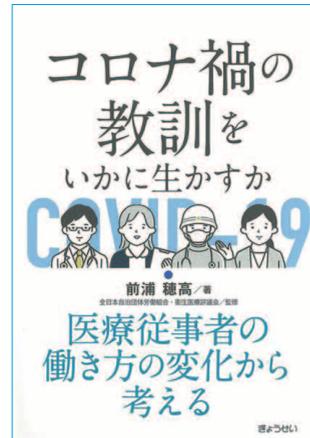
現場のインタビュー

「コロナが収束したら何をしたいですか?」

「家族で旅行は行きたいですね。」

本書の最初のページ、本書の調査のためのインタビューを受けたある医師の回答の言葉が掲げられている。

安心してこの本を読み進められる、そ



う感じた。ともすれば、活劇か戦記物、強い思い入れ、激烈な批判、制度が語り、ウイルスが主役、そうしたものをたくさん読まされてきた。

見えたものをきちんと記録する。研究のイロハのような作業が実は極めて少なかった。そのためには現場で見えたものを丁寧に取り取る以外に方法はない。

医師、看護師、救急救命士、保健師の二四人にインタビューし、問題点を抽出、制度に遡り、記録して提言を書き出す。地味だけど正確な実像がここに残された。

衛生医療評・協働

本書の最初の困難は、コロナ禍、業務が激烈を極める中で、話をしてくれる十分な調査協力者を集めることだった。そこで自治労衛生医療評が職場のメンバーを紹介する。表紙には「監修」と書いてあるが、普通の意味ではなく、この調査の土台を築くことに貢献したと思う。

二〇二〇年五月二十九日、東京上空を航空自

衛隊のブルーインパルスが「医療への感謝」飛行をした。しかし本書を読めば同じ頃、感謝と同時に、職場で、廊下をすれ違うのを避けられ、「コロナ手当」はお得だねと言われ、上司に意見が通りにくくなっているのを感じる。

忘れない

各部の連携の不足、人員削減の深刻な影響などはコロナ禍を経ても十分な反省がされず、教訓は生きていない。二〇〇九年の新型インフルエンザ流行の経験さえも生かされていなかった。

コロナ禍初期、一九一八年「スペイン風邪」パンデミックは、言葉しか知らなかった。慌てて速水融の『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』を読んだ。速水も一〇〇年前の記録が何も継承されていないことへの危機感から当時の地方紙を丹念に拾い集めた。今回もそうなりそう。一〇〇年後まで、本書を読み継ごう。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員